

図書館だより

～ 今月のおすすめ本 ～

もっと知りたい川のはなし 末次忠司

川のファンになってもらいたい!と42の川辺スポットを紹介。日本一短い川は?川の中にある空港って?など、身近で面白い話から専門的な川の構造までを観光情報とともに掲載。防災や治水への関心も高まります。(東)



つながるカレー

コミュニケーションを「味わう」場所をつくる
加藤文俊・木村健世・木村亜維子

どこかのまちに出かけてその土地の食材でカレーを作り、その土地の人々と一緒に食べるというユニークな活動「カレーキャラバン」を紹介。カレーをきっかけにして人と出会い、関わり合う中で生まれた「居心地のいい場所」がそこにあります。(西)



▶詳しくは、東図書館(☎62・0190)
西図書館(☎75・5406)へ。

くらしの豆知識

～ 絶対にダメ!危険ドラッグ ～

「危険ドラッグ」の使用が深刻な社会問題となっており、最近では、危険ドラッグ使用者による交通事故も多発しています。

▶危険ドラッグって何?

◇「合法ドラッグ」や「脱法ハーブ」などの名称で売られています。

◇インターネットで多く販売されています。

◇麻薬とよく似た成分が含まれています。

▶使うとどうなるの?

◇幻覚や幻聴、呼吸困難などが起きることがあります。

◇依存性が強く、やめようと思ってもやめられないものがあります。

◇身体への影響は麻薬と変わらず、命を落とすことがあります。

▶危険ドラッグを使って運転するとどうなるの?

◇道路交通法違反に問われます。

◇交通事故を起こし、相手にけがを負わせたり死亡させたりすると、危険運転致死傷罪に問われます。

危険ドラッグの使用は絶対にダメ!

《市民相談課》



「引き揚げ」の記憶を次世代へ

引揚記念館に展示・保管している海外からの引き揚げやシベリア抑留などに関する約1万2千点の資料の中から、今回は、満州族の民族衣装である「満服」を紹介します。

第二次世界大戦終結前までに、満州に渡った日本人は約220万人。そのうち、約155万人は開拓団や自営業者、会社員またはその家族などの民間人です。

終戦直前の昭和20年8月9日に始まったソ連軍の満州侵攻によって、多くの民間人が避難民として過酷な逃避行を強いられ、襲撃や略奪を受けることもありました。そうした襲撃から身を守るために、昼間は岩陰やコーリャン畑に身を潜め、夜間に行動することが多かったことが引揚者の手記などからも分かります。

一方、主に都市部では、逃げるに逃げられない状況に陥り、終戦から引き揚げまでの約1年、満州での過酷な生活を強いられた人たちもいました。当館に展示されている満服の寄贈者も、そういった苦難の体験者の1人です。

寄贈者は、終戦後、父はシベリアに連行され、母と2人でたびたびやってくるソ連兵におびえながら、生活の糧を得るために、子どもだけで街頭に立って物売

りをするなど、大変な苦勞をしました。

満服は、満州の鞍山というまちで、比較的平穩に暮らしていた頃に、現地の使用人の奥さんの好意で作ってもらったものでした。

引揚船に乗るため胡蘆島へ向かう際には、いつでも取り出せるように荷物の中に忍ばせました。満服を着ることで満州人を装い、襲撃から身を守るためです。

幸いなことに、この満服を着なければならぬ状況に遭遇することはありませんでしたが、日本へ引き揚げまでの間はお守り代わりにして、大切に持ち帰られました。

この満服には、平和だった頃の満州での暮らし、戦後の過酷な生活など、さまざまな記憶が込められているのです。

▶詳しくは、引揚記念館(☎68・0836)へ。



▲満服

ドクターTのひとりごと その28 励まし言葉の使い方

家庭や職場で「頑張れ」という言葉がよく使われる。過剰な期待や仕事量を課すことは不適切であるが、持てる力を最大限発揮することを求めている。

しかし、「頑張れ」という言葉が効果的に作用する人達や場面がある一方で、使ってはいけない人や状況もある。プロスポーツやオリンピックで活躍できる程の選手や、企業戦士として目標を達成するために昼夜を問わず働くことに生きがいを感じている人には「命がけて頑張れ」の言葉でも違和感はないが、不登校の子どもや出勤拒否状態の人に対して「頑張れ」はどうだろうか。ましてやうつ状態の人や病気で終末期を迎えている人にはなおさらである。

不登校や出勤拒否となる背景を有するケースでは、周りの人が状況を共有し同じ環境に身を置きながら、「無理をせず、ゆっくりやろう」「どうすれば楽になるのか一緒に考えよう」など、相手を信じ「悩みや辛さ」のあるがままを受け入れることが重要である。そのような過程で少しずつ自信を取り戻し、やりたいことを自分で見つけることができる。このようなケースは、周りの人が注意すれば気付くが、正しい対応ができるかどうか問われる。

防災ひとくちメモ

土砂災害警戒区域等を緊急周知

全国各地で発生している大規模な土砂災害を踏まえて、土砂災害警戒区域について、改めてお知らせします。土砂災害は、いつ、どこで発生するか分かりません。山際などにお住まいの人は、大雨の際には気象情報などに注意し、早めの避難を心がけてください。夜間など避難が危険な場合は、建物の山側と反対側の2階以上に避難(垂直避難)するなど、命を守る行動をとってください。

◆土砂災害警戒区域等

◇土砂災害警戒区域…土砂災害発生の恐れがある区域

◇土砂災害特別警戒区域…土砂災害発生の恐れがある区域のうち、建物が破壊され、住民に大きな被害が生じる恐れがある区域

◆指定の種類

①がけ崩れ(急傾斜地)②土石流③地すべり

◆指定箇所(京都府が指定)

平成25年度までに104地区、1,560カ所が指定。

◇府ホームページ、市ホームページに掲載

◇各地区の土砂災害ハザードマップに掲載

◇建設総務課で閲覧可(市役所別館3階)

※今年度で市内全域の区域指定が完了予定

▶詳しくは、危機管理・防災課(☎66・1089)か国・府事業推進課(☎66・1047)へ。

広げよう人権の輪 ～人の痛みが分かる人に～

埼玉県で、全盲の男性が連れていた盲導犬が、何者かに鋭い刃物のようなもので腰のあたりを数か所刺されるという事件がありました。その傷は深いもので約2センチもあったそうです。盲導犬は、血を流しながらも、声を上げなかったため、男性は全く気付かなかったそうです。

職場に着いて初めて盲導犬がけがをしていることを知らされた男性は、「オスカー(盲導犬の名前)がいなくては、自分は一歩も外を歩くことができません、大切な存在だ。自分の体を傷つけられたのと同じことのように、怒りがこみ上げてくる」と話していました。

事件の報道後、模倣犯・愉快犯が出現するケースも見受けられ、また、他の盲導犬に対しても、しっぽを踏む、わざと蹴る、煙草の火を押し付ける、落書きをするなどのいたずらや嫌がらせがたびたびあるということです。飼主の目が見えない、盲導犬が抵抗しないということにつけ込んだ、あまりにも卑劣な行為です。

なぜこのようなことをするのでしょうか。こうしたことをする人の多くは、自分より弱いものに対してストレスや不満などの発散やはけ口として、軽い気持ちでやっているのかもしれませんが、決して許されるこ

とではありません。また、そうした行為をはやし立てたり、見て見ぬふりをしたりするのも同じことをしていることとなります。

人の痛みが分からない、分かろうとしないといった人権意識の希薄さが、こうした行為を生み出しているのかもしれない。私たちは、そうした場面に直面したとき、直感的にそういうことはおかしいと思い、他人を思いやる心が態度や行動として表れるように、日頃から感覚を養うことが大切です。世の中がどんなに変わろうとも、社会には「やって良いことと悪いこと」があり、その事実が変わることはありません。弱いもの、無抵抗なものに対するそうした行為は、私たちの周りで起きているいじめや虐待と根本は同じことなのです。

《人権啓発推進室》

